

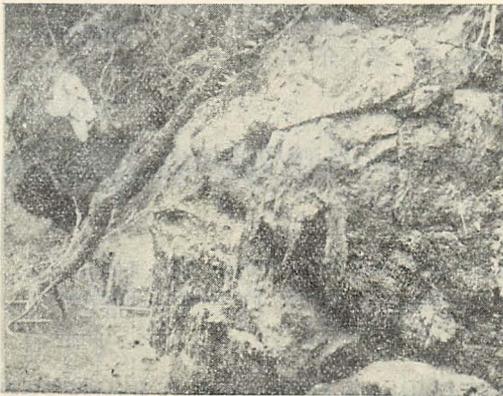
鹿 兒 島 灣 の 海 藻 雜 報

田 中 剛

1. 櫻島園山池のタニコケモドキ

鹿兒島灣，櫻島の東北に園山と云つて 77.4 m の小高い丘がある。本來この地帯は北岳熔岩であつたが，安永熔岩の流出によつて西部の大半は埋められ，その熔岩流は 2 分し更に合流して山の麓に池を作つた。これを園山池と稱している。この所は熔岩が池の兩方より流れて來た爲に完全に接觸していても，下部は熔岩の隙間を通して海と連り，潮の干満によつて池の水も増減している。一番近い所で池と海岸とは 10 m 位である。この池は周圍 200 m 位，水深 3~4 m 位で東部と北部とは熔岩であり，西部と南部とは園山から流れて來た土で砂濱の様になつている。鹿大，内藤教授の調査では此處にはハマサジとウラギクの見事な群落があり，ウラギクは体高 1~1.5 m にも達すると報じている。池は外の海面に比して鹽分も甚だ少なく，水温も低く，著しく清淨である。昨年 7 月 31 日の調査では外の海水温 28.3°C の時池の水溫は 16.37°C であつて外海と 10°C 以上の差がある。池にはウナギ，ボラ等が

生棲し，池底にはアナアヲサ，アヲノリ等が生育している。この池の殆んど周圍全部の岩面及び泥砂面の斜面には最干潮線より上方 1 m 位の幅にて丁度マツトを敷いた様に紅藻類のタニコケモドキが密生し，或は岩から垂下して赤褐色の帯をなして見事な景觀である（寫眞参照）。このタニコケモドキは數次の調査によつ



岩面に密生及び垂下するタニコケモドキの群落
(山根銀五郎氏撮影)

ても未だ結實体は見られないが、いつも見事な群落を形成していて常時生育旺盛で枯渇する事はなく非常に興味ある場所と云えよう。

尙このタニコケモドキは種類としても生態的に興味ある種類であり、琉球以外の本邦内に於ては鹿児島縣に於ては枕崎市、(時田邨, 昭和14年3月), 口之永良部島の温泉壁上, 等に發見されているが、以前は宮崎縣油津町の鈴木旅館の井戸の中にも發見されたとの報告が残っているが、現在では殆んどここでは見當らない。(若山甲藏編, 日向地名録第一, たにこけもどき, 大正8年)。

2. 長大のオホオゴノリ

昭和23年6月25日, 鹿児島水産専門學校裏の海岸に打揚げていたと云う紐状の赤い海藻類を, 鹿児島市フノリ製造業者の江夏實右衛門氏が持参された事がある。調べて見るとオゴノリ屬のオホオゴノリ (*Gracilaria gigas*) であり, 体長實に11.76 mにも達し, しかも藻体の基部と先端とは途中で切れているから完全な体では恐らく14~15 mに達したであろうと思われた。日本海藻誌にもオホオゴノリでは長いもので5 m或は10 m位にも達する事があると記されているから珍しい事でないかも知れないが筆者はかかる長大な紅藻類は本邦で初めて見た事であり, 甚だ興味を感じた次第である。尙この藻体は徑3~4 mm位で, 軟骨質で小枝は少なく, 二次的の短小枝を存し, 點在した囊果を藏していた。(鹿児島大學水産學部)

新 著 紹 介

瀬 木 紀 男 著

日本産イトグサ屬の分類學的研究

T. SEGI: Systematic Study of the Genus *Polysiphonia* from Japan and its Vicinity. Journ. of the Faculty of Fisheries, Prefectural University of Mie, 1 (2): 169-272 Figs. 1-36, Pls. I-XVI.

本論文は緒言(2頁), 研究史概説(3頁), 分類上の形質の記述(8頁), 種の檢索表(2頁), 種の記載(87頁), 索引(2頁)の6章と挿圖36圖, 寫真圖版16葉からなり, これに記載された31種の中, 新種が9, 日本新産種が11種である。著者は廣義のイト